

## 抗がん剤副作用の食欲不振など軽減

**Q** 五十歳、男性。大腸がんと診断を受け、今年二月に手術しました。リンパ腺（せん）や肝臓への転移もあり、現在抗がん剤による化学療法と放射線治療を一定の間隔をおいて受けています。治療が始まると副作用との戦いになります。漢方薬を併用すると副作用が軽減されると聞きましたが。

大腸がんの手術後にはしばしば腸の通過障害による腹痛が起こるが、これには大建中湯（だいけんちゅうとう）や中建中湯（ちゅうけんちゅうとう）がよい。化学療法による味覚異常には補中益気湯（ほちゅうえつきとう）、六君子湯（りつくんしとう）、香蘇散（こうそさん）などがある。

**A** 抗がん剤などによる副作用はがんの種類や進行度、治療方法の違いや個人差などでさまざまである。全身けん怠感や食欲不振の訴えがほぼ全例にみられる。この場合の第一選択剤は十全大補湯（じゅうぜんたいほう）である。この漢方薬は、がんの転移の予防や進行の抑制効果も期待できるとして大変注目されている。

抗がん剤の点滴や放射線治療によって気持ちの悪いだ液がたえず出て困る場合は人參湯（にんじんとう）がよい。逆に口内の乾燥感や嫌な苦み、舌がチリチリと痛むときは、柴胡桂枝乾姜湯（さいこけいしかんきょうとう）などを用いている。放射線治療による局所の皮膚の発赤・痛みには紫雲膏（しうんこう）という塗り薬が抜群の効果を發揮する。